



HIGASHI OSAKA MIDORI R.C

IMAGINE
ROTARY

CLUB WEEKLY

国際ロータリー第2660地区
東大阪みどりロータリークラブ

創 立 1998年9月24日
会 長 田 村 嘉 宏
幹 事 井 上 善 博
会報委員長 表 孝 典

2022-12-15 (第1033回)

今週のプログラム

◀ 12月15日 (木) 例会 KKR ホテル5階「瑞宝」 ▶

◎ 卓 話 「新入会員自己紹介」

山村忠弘君

♪ 本日の歌 「我等の生業」

来週の予定

◀ 1月26日 (木) 例会 KKR ホテル6階「桐」 ▶

◎ 新 年 会

先週の出席者

◀ 12月08日 (木) 例会 ▶

会員数19名 (内出席免除者数7名)

本日の出席者数9名 (内出席免除者数2名)

本日の出席率 64.3%

* 11月17日 (木)

会員数20名 (内出席免除者数8名)

例会出席者8名 (内出席免除者数2名)

メンバー4名 例会修正出席率 57.1%

幹事報告

幹事 井上善博君

◎本日は通常例会が年末最後となります。

12/22(木)は、振替休会。12/29(木)は、年末休会。

◎12/18(日)は、クリスマス家族会です。

時間：18：00 例会

18：30 クリスマス家族会

場所：KKR ホテル大阪14階「オリオン」

◎初例会は、1/26(木)になります。

新年会を行います。合わせてオークションを行いますので、品物の提供をお願い致します。

◎明日の12/16(金)と17日(土)は地区大会です。

17日(土)の本会議には出来るだけ参加頂きたいと思致します。下記参照下さい。

出来るだけクラブでまとまって着席したいと思致しますので、改めて案内させて頂きます。

地区大会

「大阪のロータリー100周年を祝おう！」

日 時：2022年12月16日(金)、17日(土)

場 所：リーガロイヤルホテル大阪

グランキューブ大阪 (大阪国際会議場)

第1日目 (12/16(金))

13：30 開会式

14：45 分科会Ⅰ 会長・幹事部門

15：00 分科会Ⅱ ロータリー財団部門

分科会Ⅲ 職業奉仕部門

16：45 大阪のロータリー100年の歩み

18：00 大阪のロータリー100周年記念晩餐会

例会場：KKRホテル大阪 Tel：06-6941-1122

例会日時：毎週木曜日 午後6時30分

事務所：〒631-0001 奈良市北登美ヶ丘3-11-30

Tel：0742-55-4869 Fax：0742-51-1067 E-mail midorirc1126@gmail.com



第2日目 (12/17(土))

13:00 本会議

16:00 大阪のロータリー100周年記念講演と
パネルディスカッション

「調和のある未来を目指して」

慶応義塾大学教授 宮田裕章様

*特に2日目の本会議への出席をお願い致します。

◎12月26日(月)、第一回大橋ガバナ一年度常任幹事
段会議及び懇親会に井上幹事が出席致します。

会長の時間 (12/8)

会長 田村嘉宏君

司馬遷 史記について

1 司馬遷について

紀元前145年ころ生まれ? 太史令 李陵を弁護し、漢の武帝から刑罰をうける。42歳ころ。宮刑男性の生殖器を切断する刑罰。宦官となる。牧畜民族の伝統的な発想。遺伝的に体が大きくて丈夫な種を残す。日本の農耕民族にはこの刑罰はない。

2 『史記』歴史書、リアリズムの文学。前漢の武帝の時代。紀元前91年、52万6500字。紀伝体(人物の伝記を中心に構成されている)編年体肯定や王族、政治家や名将などから思想家や文学者、果ては殺し屋やヤクザ、大商人まで多彩な人々が記録されている。

3 現代にまで伝わる様々な熟語

呉越同舟本来「仲の悪い者同士が一緒になって共通の危難に立ち向かうこと」であったが「仲の悪い者同士が一緒にいること」になった。

「四面楚歌」 国士無双「国家を支える人材として並ぶものがないほど優れた人物」「背水の陣」→韓信(項羽から劉邦に乗りかえる)

卓話抄録(12/8)

「ハインリヒ=シュリーマン Schliemann

1822~1890 について」

田村嘉宏君

ドイツ人貿易商であったが、41才で引退後、1870~80年代にトロイアやミケーネの発掘を行い、エーゲ文明の存在を明らかにした。

北ドイツの貧しい牧師の子として生まれ、生計を立てるため商業学校に学んで商館の事務員や書記となり、商人として独立し、外国貿易で財をなすことに成功した。41歳で引退し、幼少のころに父から聞いたギリシャ神話のトロイアやミケーネの実在を証明しようと考古学の勉強を開始、1870~80年代に次々と発掘を成功させ、ギリシャ古代文明の解明に大きな功績を残した。シュリーマンの研究は現在では修正されていることが多いが、エーゲ文明の発見者として今でもその業績は消えることはない。

シュリーマンの見た幕末日本

シュリーマンは41歳で商人としての活動をやめると、43才になった1865年に世界漫遊を思い立ち、インド洋から香港に入り、上海、北京を訪れた後、日本にもやってきている。その慶応元年の日本滞在は6月1日から7月4日、一ヶ月にすぎない梅雨の間であったが、シュリーマンは積極的に横浜・江戸を歩きまわり、八王子、原町田まで足を伸ばしている。その旅行記は日本語にも訳され『シュリーマン旅行記 清国・日本』として読むことができるが、ちょうど将軍徳川家茂が第2次長州征伐を奏上するため京都に向かう行列を見たことや、日本人の生活の観察など、幕末日本の一瞬が切り取られていて興味深い。シュリーマンはこの旅行から帰ってから旅行記をまとめて出版、最初の著作とした。そしてその後、44才になった1866年から本格的な考古学の研究を開始、1871年にトロイア発掘に着手したのだった。<シュリーマン/石井和子訳『シュリーマン旅行記 清国・日本』1998 講談社学術文庫>



シュリーマンの発見した3つの遺跡

シュリーマンは、以下の3つの遺跡を発見したことで考古学上大きな成果を上げた。

トロイ遺跡の発見～シュリーマン最大の功績～

シュリーマンはトロイアが伝説上の都市ではなく実在すると信じ、トロイアは小アジアのエーゲ海岸にあると考え、オスマン帝国（現在のトルコ）で発掘作業を開始しました。ピナルバシュの発掘を通じて、同じくトロイ遺跡を探していたフランク・カルヴァートというイギリスのアマチュア考古学者にアドバイスをもらい、次の発掘の目星は彼が所有していたヒサルルクの丘に決めました。発掘により青銅器時代からローマ時代までの9層からなる都市の痕跡を見つけることができ、そして1873年に黄金の装飾品を発見し、これらの埋蔵品はシュリーマンによってプリアモスの財宝と名付けられました。

都市の遺構や埋蔵品などから、シュリーマンはこの場所がトロイアであると確信し、伝説のトロイア王国は実在したと発表を行いました。9層からなる都市遺構の中で、トロイア戦争による大火の痕跡があり、数多くの埋葬品の出土から、最下層から2番目の第2都市をトロイアであると推測しました。

しかし、実際には第2都市は紀元前2600年～2250年の都市となり、シュリーマンの推測は間違いでした。その後の研究で、第7層Aから出てきた火災の跡や虐殺の証拠などにより、第7都市が紀元前1300年～1190年のトロイア戦争の時代であると判明しています。おとぎ話にすぎなかったトロイ遺跡を発見したことで、世界中が驚き、シュリーマンに一躍脚光が当たりました。この功績により古代ギリシャのエーゲ文明の研究が進むことになりました。

シュリーマンによって発見されたプリアモスの財宝

Matysik, Public domain, Wikimedia Commons

トロイ遺跡から発掘された財宝は、ホメロスの叙事詩で語られているトロイの王の名前から、プリアモスの財宝と名付けられました。陶器のゴブレット、銅の盾、銀の壺、銀のナイフ、金の指輪、金のカップ、金の帯状の髪飾りなど数多くの財宝が出土して

います。

これらの財宝はシュリーマンによって私物化され、オスマン帝国に無断でギリシャに運ばれていました。事態を重く見たオスマン帝国はシュリーマンの発掘権を剥奪しましたが、発掘した財宝を渡すことやお金を支払うことで発掘権を取り戻す交渉を行い、発掘を続けました。オスマン帝国が取り戻した財宝の一部は現在イスタンブールの考古学博物館で見ることが出来ます。



ミケーネ遺跡の発掘

トルコでトロイ遺跡の発掘を成功させたシュリーマンは、トロイア戦争でギリシャ軍の総大将を務めたアガメムノンの墓を見つけるためギリシャで発掘作業を行いました。

1876年にギリシャのペネポネソス半島の北部で遺跡を発掘し、このミケーネ遺跡からは、王宮の城門で2頭の獅子が向き合う彫刻がされている獅子門、直径28メートルの円形墳墓A、柱や浴室跡が残る王宮の跡、切り石を積み上げてドーム型にしたアトレウスの墳墓などの遺構が発掘されました。



遺跡の特徴として巨大に切り取られた石を積み上げて建物が作られており、この場所で栄えた文明はミケーネ文明と呼ばれています。黄金の副葬品で一番有名なのは、アガメムノンのマスクと呼ばれる金で出来た葬儀用の仮面です。円形墳墓Aから出土した副葬品があまりにも素晴らしく、シュリーマンはこの墓をアガメムノンの墓であると信じ、黄金のマスクをアガメムノンのマスクと呼びました。

ティリンス遺跡の発掘

62歳になったシュリーマンは、1884年にミケーネ遺跡の南にあるティリンス遺跡の発掘を本格的に行いました。ティリンスは紀元前13世紀頃に最盛期を迎えたミケーネ文明の遺跡で、大広間のある宮殿や巨人サイクロプスが築いたとされる巨石が積み上げられた城壁が特徴です。また、ギリシャ神話の英雄ペルセウスが治めた町と言われ、ペルセウスのひ孫にあたるヘラクレスの生誕の地であるとされています。シュリーマンの発掘によって、巨石で作られた回廊の存在や、3階建ての宮殿の全貌が明らかになりました。宮殿の跡地からは、戦車（チャリオット）や槍を持った男性などの壁画や銅の短剣などの戦いに関する物や、女性や猪狩りの様子などの生活を表す壁画やネックレスや金の指輪などが発掘されました。

シュリーマンの死後、ミケーネ遺跡やティリンス遺跡においてミケーネ文明で使われていた線文字B（古代ギリシャ語を表記したもの）で記された粘土板が発掘され、これをイギリスの考古学者ヴェントリスが解読に成功したことで当時のシュリーマンの研究には修正が加えられましたが、シュリーマンの発掘を発端として古代ギリシャ文明の解明が大きく進んだのです。

シュリーマンの総評

シュリーマンという人物を分析すると、自身が自伝で語っている内容と実際に行ったことが異なっていることが多々あります。このことが現代でも

多くの批判的となっています。しかし全てが誤りや虚言ではなく、トロイア戦争やミケーネ文明の遺跡を発見したことにより、古代文明の解明に大きな貢献したことはまぎれもない事実です。

もし彼がいなければ、ミケーネ文明やそれ以前のクレタ文明は謎のまま歴史の空白になっていたかもしれません。また、ホメロスの叙事詩はただのおとぎ話で終わっていた可能性もあります。シュリーマンほど功績の評価が正反対に分かれる人物はなかなかいないのではないのでしょうか？

参考『世界史の窓』『ターキッシュエア&トラベル案内』



本日のお祝い

会員交流委員会

- ◎会員のお誕生日 12月23日 山片重房君
1月18日 小寺史郎君
- ◎奥様のお誕生日 1月6日 山村奈美子様

ニコニコ箱の報告

例会担当委員会

(12/8)

- *例会出席者全員からニコニコ頂きました。
 - ◎今日はパールハーバーの日です。戦争はとにかく避けたいですね。平和な日々が続きますように！
田村嘉宏君
 - ◎日本のサッカーよく頑張りましたー！
井上善博君
 - ◎先週は欠席しましたが、今週から再び宜しくお願い致します。
松本隆司君
 - ◎来週中旬から一層寒さが厳しくなるそうです。皆様ご自愛下さい。
政岡政広君
- 本日合計 10,000円 今年度累計 216,000円**

未来に向けて行動しよう



IMAGINE ROTARY イマジンロータリー

2022-23年度 東大阪みどりRCテーマ

IMAGINE
ROTARY

2022-23年度 国際ロータリーテーマ